

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：35308

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24790524

研究課題名(和文)回復期リハビリテーションを受ける高齢者に適用する包括的環境支援地域連携パスの開発

研究課題名(英文)Development of a comprehensive environmental support regional cooperation path for elderly individuals undergoing recovery rehabilitation

研究代表者

藪脇 健司 (Yabuwaki, Kenji)

吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：20347280

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の目的は、回復期リハビリテーションを受ける高齢者が、地域連携アプローチによる環境支援を通して満足度の高い在宅生活を送るための包括的環境支援地域連携パスを開発することであった。パスの検討メンバーは、回復期リハビリテーション病棟と居宅サービス事業所に勤務する実務経験10年以上の作業療法士等、計35名であった。Lime Survey(有限会社ディアイビー社製)を活用したデルファイ法によって原案を検討した結果、7領域の達成目標と14項目のタスクが検討メンバー間で合意された。これらの成果より、地域連携アプローチを通じた高齢者の環境支援を推進できるオーバービューパス(医療者用)が開発された。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a comprehensive environmental support regional cooperation path aimed to promote a highly satisfying home life through an environmental and regional cooperation approach for elderly individuals undergoing recovery rehabilitation. The Delphi panel comprised 35 individuals, including physicians, nurses, social workers, physical therapists, occupational therapists, certified care workers, and care managers, all of whom had 10 years of practical experience and who worked at a recovery rehabilitation unit or with in-home service providers. The draft of the environmental support path was assessed using the Delphi method (web-based survey) via the Lime Survey 2.05 plus (DIP Inc.), an open source system. As a result of the analysis, a consensus was reached for seven areas and 14 tasks. These results suggest that we were able to develop an overview path that promotes environmental support for the elderly by taking a regional cooperation approach.

研究分野：作業療法学，医療社会学

キーワード：環境支援 高齢者 地域連携パス 回復期リハビリテーション 居宅サービス

1. 研究開始当初の背景

(1) 地域連携クリティカルパスの問題点

わが国では、医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供が重要とされ、地域連携クリティカルパス（以下、地域連携パス）の普及が推進されている。しかし、回復期病院等と退院後の外来診療等を担う病院、診療所、介護サービス事業所（以下、維持期施設）との連携については、2010年の診療報酬改定によって、退院時指導料等が算定できるようになったばかりである。

各地域で運用されている地域連携パスの主な対象者は、脳卒中と大腿骨頸部骨折患者である。これらの患者の大部分は高齢者であることから、物理的・社会的環境を包括的に捉え、必要な環境を調整する視点が重要となる。しかし、地域連携パスは、治療や心身機能、ADLに関する情報の共有が主目的で、実際に在宅生活をフォローアップする維持期施設まで環境調整に必要な情報が提供されないという問題がある。

(2) 包括的環境要因調査票の活用

研究代表者は、過去に科学研究費補助金の交付を受けて開発した包括的環境要因調査票（以下、CEQ）の構成概念（図1）を用い、回復期リハビリテーションを受ける高齢者を対象に、一般的な地域連携パスと併用できる包括的環境支援パスを開発することを着想した。本調査票は、在宅高齢者のQOLに影響する環境要因を包括的に評価するもので、全国の在宅要支援・介護高齢者に対する信頼性と構成概念・基準関連妥当性の検討¹⁾を通して開発されたものである。

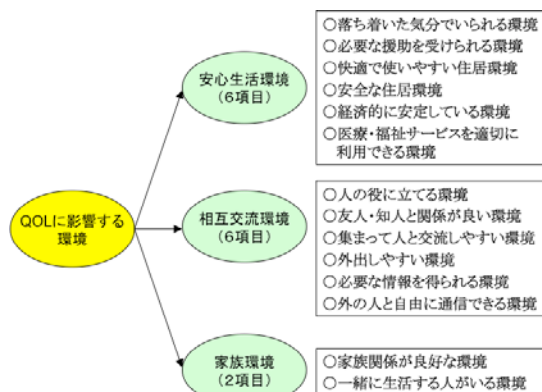


図1 包括的環境要因調査票の構成概念

2. 研究の目的

回復期リハビリテーション（以下、回復期リハ）を受ける高齢者が、地域連携アプローチによる環境支援を通して満足感の高い在宅生活を送るための包括的環境支援地域連携パス（以下、環境支援パス）を開発することを本研究課題の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究手法

本研究では、環境支援パスを構成する各達

成目標とタスクを検討するために、コンセンサス法の一つであるデルファイ法を使用した。コンセンサス法は、科学的根拠が不足している事柄を検討するために、参加者の同意の程度を明らかにし、対立する意見をすり合わせて合意を形成する手法である²⁾。

(2) 検討メンバー

回復期リハ病棟と居宅サービス事業所に勤務する実務経験10年以上の医師、看護師、ソーシャルワーカー（相談員）、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、介護支援専門員の計35名をデルファイ法の検討メンバーとした。所属施設の内訳は、回復期リハ病棟13名、居宅サービス事業所18名（介護老人保健施設5名、通所リハビリテーション2名、通所介護6名、居宅介護支援事業所5名）であった。

(3) 原案の作成

環境支援パスの原案は、回復期リハ病棟に勤務する主任級の作業療法士と通所介護事業所の所長、研究代表者の3名で検討した。原案はCEQの構成概念に準拠して検討され、10領域で構成されることが妥当であると判断された。CEQは3因子14項目の2次因子モデルを採用しているが、原案では一部の項目を統合し、安心生活環境4領域、相互交流環境4領域、家族環境2領域となった。

ここから、各環境要因の達成目標とそれに対応する26項目のタスクを決定した。各タスクには所要期間を設定したが、回復期リハのみで完結するのが5項目、維持期のみで完結するのが2項目あったものの、19項目は地域連携アプローチが必要なタスクであった。

(4) デルファイ法による合意形成の方法

作成した原案をオープンソースのシステムであるLime Survey 2.05 plus（有限会社ディアイビィ社製）を活用したデルファイ法（Webアンケート）によって検討した（図2）。

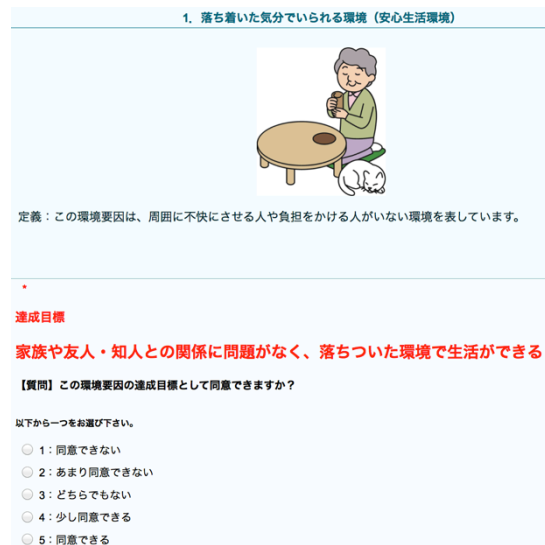


図2 Webアンケートのイメージ

具体的には、検討メンバーが回復期リハ病棟の入院から、居宅サービスを利用して3か月経過するまでの期間における各達成目標・タスクとして妥当かどうかを検討し、同意の程度を5段階で採点した。それぞれの達成目標等の合意判定基準は、同意の程度の中央値(Med)が5に達し、四分位数間領域(IQR)が1.0以下であることとした。

4. 研究成果

有効回答は31名(88.6%)から得られ、7領域の達成目標と14項目のタスクが検討メンバー間で合意された。合意された達成目標は、領域別に安心生活環境が2/4領域、相互交流環境が4/4領域、家族環境が1/2領域であった(表1)。

表1 達成目標の検討結果(デルファイ法)

達成目標	Med	IQR
<安心生活環境>		
家族や友人・知人との関係に問題がなく、落ち着いた環境で生活ができる	4	2.0
日常生活に必要な手助けや心理的な支え、医療・福祉サービスを受けることができる*	5	0
効率良く安全に生活できるよう、住居環境が心身機能に合わせて整備されている*	5	0
安定した生活を送るために必要な定期的な収入や給付、貯蓄がある	4	1.5
<相互交流環境>		
日常生活で人の役に立つと実感できる活動や役割に取り組んでいる*	5	1.0
信頼できる友人が存在し、友人・知人との交流や集まりに参加できる*	5	1.0
自宅からの交通手段が確保され、定期的に外出することができる*	5	0
情報媒体や家族から必要な情報が得られ、通信機器を用いて外部と連絡を取ることができる*	5	1.0
<家族環境>		
家族や親族と定期的な交流があり、関係が良好である*	5	1.0
日常生活において家族などの同居者が存在する	3	2.5

*合意された目標

また、合意されたタスクは表2の通りで、相互交流環境の「人の役に立てる環境」と家

族環境の「家族環境が良好な環境」以外の8領域に含まれるものであった。

表2 合意されたタスク一覧

落ち着いた気分でいられる環境(安心生活環境)	<ul style="list-style-type: none"> 落ちついた気分で過ごすために、本人と同居家族との関係を調整する 自宅とその周辺が落ち着ける生活環境を確認し、問題があれば改善する (2/3タスク合意)
必要な援助・サービスを受けられる環境(安心生活環境)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な援助を明らかにし、家族や知人のサポートを依頼する 日常生活に必要なサービスを明らかにし、調整する (2/2タスク合意)
使いやすく安全な住居環境(安心生活環境)	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能性と安全性を評価する 福祉用具の適応を検討し、必要に応じて選定する 在宅復帰後に住居環境のフォローアップと再評価を行う (3/4タスク合意)
経済的に安定している環境(安心生活環境)	<ul style="list-style-type: none"> 負担軽減と生活扶助に関する制度の利用を検討する (1/2タスク合意)
人の役に立てる環境(相互交流環境)	なし (0/2タスク合意)
友人・知人と交流しやすい環境(相互交流環境)	<ul style="list-style-type: none"> 退院後の友人・知人との交流関係を確認し、必要に応じて手段や機会を確保する (1/2タスク合意)
外出しやすい環境(相互交流環境)	<ul style="list-style-type: none"> 家族や知人による移動援助の必要性を判断し、状況に応じて調整する 福祉バス・タクシーや交通費助成等の制度利用を検討する (2/3タスク合意)
必要な情報収集と連絡ができる環境(相互交流環境)	<ul style="list-style-type: none"> 固定電話、携帯電話、メール等の利用が可能か検討する 緊急時の連絡体制を整備する (2/4タスク合意)
家族関係が良好な環境(家族環境)	なし (0/2タスク合意)
一緒に生活する人がいる環境(家族環境)	<ul style="list-style-type: none"> 退院後の同居者の有無と必要性を確認し、調整する (1/2タスク合意)

以上より、地域連携アプローチを通じた高齢者の環境支援を推進できるオーバービューパス（医療者用）が開発された。

<文献>

- 1) Kenji Yabuwaki et al., Reliability and validity of a Comprehensive Environmental Questionnaire for community-living elderly with healthcare needs, PSYCHOGERIATRICS, Vol. 8 No. 2, 2008, 66-72
- 2) Jones J, Hunter D (大滝純司監訳), Delphi process や nominal group による保健・医療サービスの研究, 質的研究ガイドー保健・医療サービス向上のために, 医学書院, 2001, pp. 44-53

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ①石岩, 王樹東, 籾脇 健司, 谷村厚子, 繁田雅弘, 中国語版「高齢者のための包括的環境要因調査票」(CEQ-C)の言語的妥当性, 作業行動研究, 査読有, 17 巻 3 号, 2013, 155-162

[学会発表] (計 12 件)

- ①石岩, Sharmila Shrestha, 谷村厚子, 籾脇 健司 他, 中国高齢者が希望する生活環境のニーズとは, 第 24 回日本保健科学学会学術集会, 2014 年 9 月 27 日, 首都大学東京荒川キャンパス (東京都・荒川区)
- ② Kenji Yabuwaki et al., Patterns of environmental factor awareness among elderly who utilize in-home services: Affects on subjective QOL. 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, June 18, 2014, Yokohama (Japan)
- ③岡本理宏, 河津拓, 籾脇 健司, 通所介護施設における CEQ を用いた施設間連携ー包括的環境支援の事例を通して, 第 1 回日本臨床作業療法学会学術大会, 2014 年 3 月 23 日, 神奈川県立保健福祉大学 (神奈川県・横須賀市)
- ④籾脇 健司 他, 在宅要支援・介護高齢者の作業的不公正と環境支援の関係ーCEQ を用いた検討, 第 17 回作業科学セミナー, 2013 年 12 月 1 日, 郡山ユラックス熱海 (福島県・郡山市)
- ⑤岡本理宏, 河津拓, 籾脇 健司, 通所介護施設での包括的環境支援の実践ーCEQ を用いた介入による実践報告, 第 10 回滋賀県作業療法学会, 2013 年 11 月 17 日, 滋賀県文化産業交流会館, (滋賀県・米原市)
- ⑥石岩, 王樹東, 王淑娟, 谷村厚子, 籾脇 健司 他, Chinese Version of Comprehensive Environmental

Questionnaire (CEQ-C) の妥当性と信頼性, 第 23 回日本保健科学学会学術集会, 2013 年 10 月 5 日, 首都大学東京荒川キャンパス (東京都・荒川区)

- ⑦ Kenji Yabuwaki et al., Patterns of environmental factor awareness among elderly who utilize health care services: Effects on health-related QOL, International Psychogeriatric Association 16th International Congress, October 2, 2013, Seoul (Korea)
- ⑧籾脇 健司 他, 在宅要支援・要介護高齢者の作業療法における包括的環境支援の効果ーランダム化比較試験による検討, 第 47 回日本作業療法学会, 2013 年 6 月 28 日, 大阪国際会議場 (大阪府・大阪市)
- ⑨籾脇 健司 他, 居宅サービスを利用する高齢者を対象とした作業療法による包括的環境支援の効果ーランダム化比較試験, 第 28 回日本老年学会総会, 2013 年 6 月 5 日, 大阪国際会議場 (大阪府・大阪市)
- ⑩籾脇 健司, 在宅生活者における役割の重要性和 QOL の向上, 第 6 回本物ケア学会, 招待講演, 2013 年 5 月 19 日, 岡山県立大学 (岡山県・総社市)
- ⑪ Kenji Yabuwaki et al., Effects of comprehensive environmental support on the rehabilitation of community-dwelling elderly: A randomized controlled study. Asia Pacific Geriatrics Conference 2012, October 21, 2012, Hong Kong (China)
- ⑫籾脇 健司 他, 地域在住高齢者の作業的エンパワメントを可能とする環境支援アプローチの効果ーランダム化比較試験 (第 1 報), 第 16 回作業科学セミナー, 2012 年 7 月 15 日, 札幌医科大学 (北海道・札幌市)

[図書] (計 1 件)

- ①籾脇 健司 他, 高齢者のその人らしさを捉える作業療法, 文光堂, 2015, 256

[その他]

ホームページ等
吉備国際大学高齢期作業行動科学籾脇研究室
http://www.kiui.ac.jp/~yabu/

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
籾脇 健司 (YABUWAKI, Kenji)
吉備国際大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号: 20347280